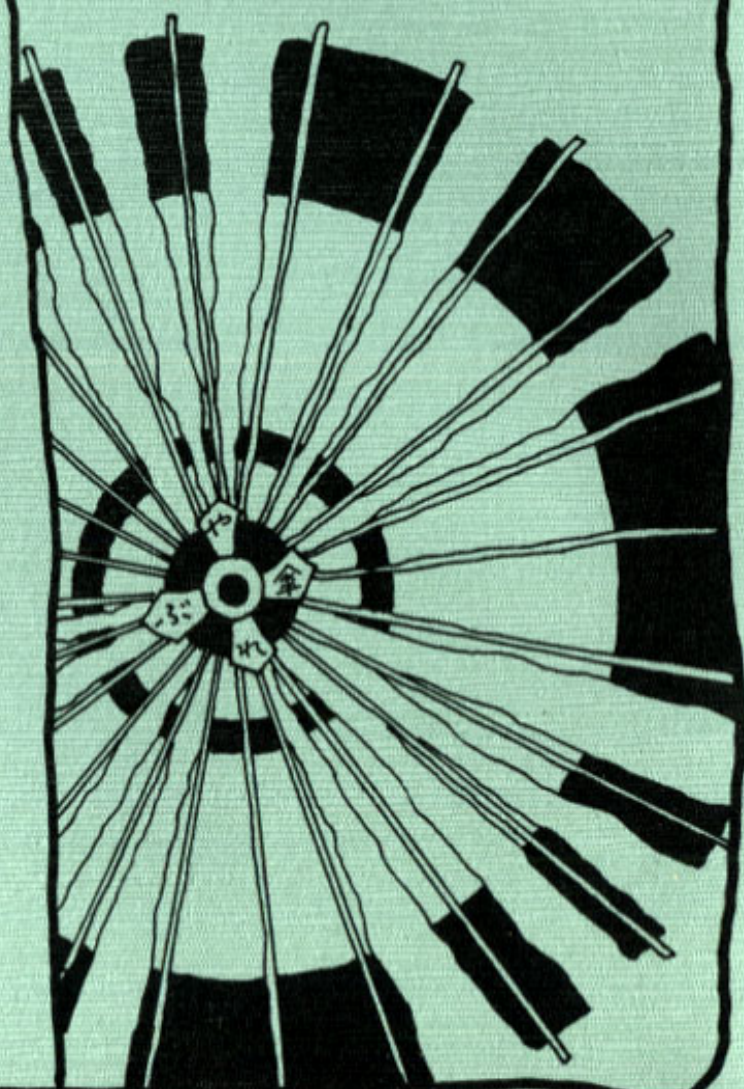


やぶれ傘



八十二号

二〇二五年二月

探梅やまともに川の向ひ風	根橋宏次
たつぷりのハンドクリーム年惜しむ	きくちきみえ
雪の朝駅へと人は一列に	廣瀬雅男
耳袋着けたる生徒たち笑ふ	大島英昭
長風呂の追ひ焚きをする去年今年	丑久保 勲
五時の鐘枯葉が風に鳴り始む	藤井美晴
寒林の先の三角山に雲	渡邊孝彦
冬茜薄れゆきけり船溜り	安藤久美子
年用意「金の成る木」を居間に入れ	久世孝雄
冬ぬくし馬跳びのまた総崩れ	青谷小枝
しぐるるや船頭小屋に客二人	白石正躬
冬灯ノートに落ちる指の影	小山陽子
里神楽舞台の白狐跳びにけり	瀬島洒望
雪吊りの縄四方から空を引く	有賀昌子
炬燵出す出せば自づと座のきまり	國保八江

抄 集 句 傘 れ ぶ や
選 夫 紀 崎 大

鳥の水脈末広がり日脚のぶ	菊池洋子
鳴群るる餌は禁止の池なれど	松村光典
若水を硯の海に五六滴	貫井照子
棟上げに掛け矢を振るふ冬日和	橋本美代
非常勤の最終授業秋の暮	濱野 新
木柵はコンクリ作り谷紅葉	松本善一
揚げたてのカレーパン買ふ五日昼	松本正生
数へ日やおみくじ結ぶ竹新た	森美佐子
嬰兒 みどりご の名も新しく祝箸	湯本正友
鉢植ゑの小さき七草摘みにけり	秋元久子
坂道に沿ひて蠟梅香りけり	浅嶋 肇
差し潮に揺れゐる寒の海月かな	天野美登里
喧嘩独楽ひとつ離れて廻りけり	安斉正蔵
山中の祠にノート冬紅葉	奥田温子
寒菊や庭石に撒く鳥の餌	上林富子

年用意

久世孝雄

おでんには並々注ぎてコップ酒
買ひ置き冬至南瓜に刃を入れる
天保の飢饉の墓標枯野中
今までに一番の出来大根引く
年用意「金の成る木」を居間に入れ
しろじろと霜夜の庭の犬の墓
手造りの味噌溶かし込む根深汁
一族で金粉入りの年酒酌む
元朝の一番風呂を溢れさす
止まるまで児の瞳のひかる独楽廻し

馬跳び

青谷小枝

冬もみぢ矢倉の神の石三つ
抱いて行く子へ約束の聖夜菓子
街は師走幾度も聞く発車ベル
霜の夜を小鍋の汁に飯足して
風ひと日軒に黒ずむ吊し柿
湯壺まで十歩ばかりを風花す
羽子板に焼絵の梅の二三輪
石庭に三日の日差しありにけり
凍土に置く飯粒に鳥の来て
冬ぬくし馬跳びのまた総崩れ

船頭小屋

白石正躬

座布団に冬の日あたる廊下かな
しぐるるや船頭小屋に客二人
冬夕焼渡船の水脈に揺れぬたる
煤逃げの本屋の本を見尽して
初春の毘沙門天に参りけり
大屋根にふくら雀の空をみて
校庭につむじ風くる水仙花
雪催ひ川辺の午後の渡船小屋
土竜塚踏んづけて行く冬の土手
小社へつづく田圃や日脚伸ぶ

冬 灯

小山陽子

冬 灯 ノ ー ト に 落 ち る 指 の 影
東 京 の 冬 夕 焼 け や 隅 田 川
寒 牡 丹 垣 の 暇 より 覗 き け り
寒 鴉 鳴 き て 上 野 に 日 は 落 ち て
コ ー ヒ ー は ほ と ん ど が 泡 冬 う ら ら
硝 子 戸 に 猫 背 の 映 る 寒 夜 か な
コ ー ト 着 る 坊 主 頭 の 歪 み か な
水 仙 の 二 輪 咲 き た る 夜 の 居 間
時 計 屋 に ア ラ ー ム の 音 春 隣
北 風 や び り び り と 鳴 る レ ジ 袋

里神楽

瀬島洒望

拝観の順路出口へ石路の花
里神楽舞台の白狐跳びにけり
短日や借り手決まらぬ貸し店舗
手相見の看板に散る木の葉かな
すが漏りや時計の鳩は出でしまま
猿山の辺り楓の冬紅葉
晩酌のあてに干し鮭笹りけり
菩提寺の世継ぎの僧の御慶かな
万両を跨ぐ回廊渡りけり
御手洗の辺りぬかるみ初詣

雪吊り

有賀昌子

落葉踏をちこちもぐら塚ありて
九年母の実の二つ三つ落ちてあり
雪吊りの斜め右上昼の月
汽笛鳴る汐留川に冬鷗
葉牡丹は動物園の入口に
檸檬持ちあもんと言うて幼子は
昼餉あと蜜柑二つを出されけり
雪吊りの縄四方から空を引く
春隣五尺五寸の六年生
石路や井戸の釣瓶の新しく

つむじ風

國保八江

炬燵出す出せば自づと座のきまり
芒原昼三日月のうつすらと
美術館は銀杏黄葉の只中に
多度津よりみかん一箱届きけり
ペースメーカーつけて夫の柚湯かな
雪吊りの縄つたひくる雨雫
足下につむじ風立つ冬木の芽
お年玉八つつくりて実家へと
寒鴉竹の葉づれの音のして
菩提寺の渡り廊下や竜の玉

日脚伸ぶ

菊池洋子

藍絵皿透けるふぐさし剥がし食ぶ
手摺なき階段のぼるちやんちやんこ
山眠る民話の里の児童館
和紙で折る干支の羊や年用意
上州の風強き日の煮大根
柊の咲く生垣の刈り込まれ
古民家の壺にあふれて野水仙
風折れの水仙剪つて瓶に挿す
鳥の水脈末広がりに日脚のぶ
大玻璃戸磨きて春を待ちにけり

寒 稽 古

松村光典

北風に蕎麦屋の幟はためいて
鴨群るる餌は禁止の池なれど
寒の入り散歩する犬服を着て
冬支度櫛ばっさり枝切られ
チーズ食みグラス重ねる冬至かな
初雪を猫と眺める硝子越し
大寒の空に満月昇りけり
一段と掛け声つゝのる寒稽古
雪降り積むお茶を飲む間も雪降り積む
明日は雪ベンチにあれば渌水も

黒街畑冬鳥骨落
 土路にのの拾葉
 を樹て田巢ふ掃
 潤の一やを音く
 す瘤服の隠し巫
 雨のそお正す女
 やれ茶面こかな
 寒ぞ寒にとな寒
 明れに浅き冬さ
 け雪入間冬かな
 る催る山櫟な

齋藤 博

雪凍歳の蒲冬万冬
 のての生日葉晴
 日風市野日向のれ
 のや梅ゆ同碑や
 湯朝がくじ建薄
 島月の枝方つ紙
 天神先餅む丘ほ
 絵富士にすくしの
 馬富士人のら鳩朝
 溢白の冬鳩のれ
 れく列虹群の月

齋藤 朋子

佐竹千代

どんぐりを手に遊ばせて風受けて
人込みを縫ひて熊手を担ぐ人
山茶花の紅のこぼるる月明り
冬の朝なかなか貼れぬ背の湿布
幼子の握り拳のやうな蕪
空き缶の風に転がる寒夜かな
静かなり耳を澄ませば霰降る

眞田忠雄

台に乗り唐箕を通す今年蕎麦
時雨過ぐ未だ刈られぬ稻垂れて
百歳に年取つたねと冬の宵
さくさくと霜の畔踏む遠筑波
残り月瓦の紋と枯柏
温みある若水汲みて蕎麦を打つ
注連飾る文政よりの赤鳥居

◇ 3月・4月の句会案内

月	日	時	句 会 名	会 場	連 絡 先
3 月	3日(火)	AM9:00	こ な か ら 会	戸田市中央公民館	國 保 八 江
	3日(火)	PM6:00	う ら ら 会	浦和コミセン	瀬 島 孟
	4日(水)	PM7:00	ぎ ん な ん 会	浦和コミセン	丑久保 勲
	6日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	6日(金)	PM6:00	な ご み 会	浦和コミセン	丑久保 勲
	21日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤 井 美 晴
	22日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
	28日(土)	AM10:00	楽 天 会	中央公民館	廣 瀬 雅 男
4 月	3日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	3日(金)	PM6:00	な ご み 会	浦和コミセン	丑久保 勲
	6日(月)	PM7:00	ぎ ん な ん 会	浦和コミセン	丑久保 勲
	7日(火)	AM9:00	こ な か ら 会	戸田市中央公民館	國 保 八 江
	7日(火)	PM6:00	う ら ら 会	浦和コミセン	瀬 島 孟
	18日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤 井 美 晴
	19日(日)	AM10:00	吟 行 会 (下記注)	大宮・氷川神社	丑久保 勲
	25日(土)	AM10:00	楽 天 会	中央公民館	廣 瀬 雅 男
	26日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

(注) ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

4月19日(日)の吟行。集合は10時。集合場所はさいたま市JR大宮駅中央改札口・インフォメーション前。吟行地は氷川神社と大宮公園。句会場は稲荷会館(大宮区役所の南隣)。

◎ 連絡先	瀬 島 孟	☎ 048-862-2757	藤 井 美 晴	☎ 0422-55-2733
	大 島 英 昭	☎ 048-592-5041	WEP編集室	☎ 03-5368-1870
	廣 瀬 雅 男	☎ 048-443-7522	浦和コミセン	☎ 048-887-6565
	丑久保 勲	☎ 048-853-3856	WEP俳句教室	WEP編集室へ